

●文化交流の要請受けて東欧へ 八八年十月〜十一月

東ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー三国の文化省から神奈川県立県民ホールと交流強化を図りたいとの趣旨で、文化担当副知事宛て招待状が届いた。知事と協議の結果、これを受けることとし、県民ホールの川口、文化室の西森両君とともに、私が責任者になり、八八年秋、東ベルリン、西ベルリン、ドレスデン、プラハ、ブラチスラバ、ブダペストを訪れた。3国の文化省大臣または副大臣、プラハ市長などを表敬、各都市のオペハウスとの責任者と今後の交流について懇談を重ねた。音響効果はもとより、山下公園、中華街などの周辺環境を含め、県民ホールへの評価が予想外に高かったのが印象的だった。厳しい検問を体験したベルリンの壁が一年後に崩壊したことも記憶に生々しい。

東独に招ばれて飛びしベルリンは ロンドン経由でしか入れず

ベルリンの壁を見上げてこの異常 壊れるときはいつ訪れるらん

ベルリンの壁をくぐりて西東 往き来をするは緊張の連続

東西のベルリンオペラお互いに 相手をくさし欧州一誇る

東西のベルリン比べ「豊饒」と 「清貧」の差鮮やかに迫る

プロイセンからザクセンに入るやかの青年 急にはしやぎて饒舌となる

(プロイセン州の東ベルリンで東独文化省に勤めるこの青年は、ザクセン州ドレスデン出身でプ

ロイセン嫌いだっただ)

欧州のヒロシマと言われしドレスデン 廃墟の記念碑に肅然と立つ

東独からチェコに入るや長停車 パスポート点検に一時間半

車窓からのネッカー河の風景は セピアに染まりて心に焼きつく

プラハの駅に出迎う文化省 通訳未着で無言で微笑む

出迎え者英語通ぜず困り果て ロシア語話せば小躍りする彼

(プラハ駅で。チェコの文化省の役人はモスクワ大学留学生だった)

ブルタヴァ(モルダウ)のカレル橋からプラハ城 いつまで見ても飽きざる眺め

プラハは塔の街なり見晴るかす 果て無き空に塔の林立

ホテルからかすかに見ゆる白い帯 音に聞こえしドナウの流れ(ブラチスラバにて)

朝霧のハンガリー平原走り行けば 樹氷の林限りなくつづく

トラックの長蛇の列の先見れば 検問所の前であくびする人びと

ブダペストわれの泊まりしこの部屋は 北鮮人(びと)の定宿の隣